

新年稽古始めに臨む剣士＝可児市大森奥洞、漱玉館



剣士100人 稽古始め

県剣道連盟、有段者ら参加

漱玉館で竹刀交える

県剣道連盟の新年稽古始めが3日、可児市大森奥洞の武道場「漱玉館」で開かれ、県内の八段剣士を含む有段者ら約100人が竹刀を交えた。

漱玉館での稽古始めは2022年から続いており、今回5回目。同館を拠点とするバローホールディングス(HD)の剣道部も参加する中、同館師範の8段高石和摩さん(76)を筆頭に中

学生から80代までの実力者が臨んだ。

同HDの田代正美会長兼CEO(78)も参加し「昨年は世界中の実力者に漱玉館を活用してもらった。今後縁起のいい道場として広めていきたい」とあいさつ。参加者は防具を着け、気迫あるかけ声とともに打ち合った。

同部の久木原裕二監督(50)は「幅広い年代の実力

者が一堂に集まり、有段者の先生方に稽古をつけてもらえる貴重な機会。ありがたい」と話した。稽古後には、参加者に豚汁やぜんざいが振る舞われた。

(田中純太郎)